

架け橋なかよしプロジェクト

～幼保小の連携を通した
子どもの育ちと学びをつなぐ取組～



本日の内容

1. 私たちの目指す教育

2. 本年度の取組

- ① 思いを込めたネーミング作成
- ② 保育参観・合同研修会の実施
- ③ めざす子ども像についての話し合い
- ④ 1年生と年長児の「あきのおもちゃ交流会」
- ⑤ 「架け橋期のカリキュラム」作成に向けて

3. 本年度の成果

1. 私たちのめざす教育：美保南小学校区の連携

→美保南小学校、鳥取第四幼稚園、のぞみ保育園

美保南小学校

学校教育目標

やさしさを磨こう

めざす子ども像



【自ら学ぶ(自学)】

意欲を持って学習に取り組む子ども

【やさしさを持つ(福祉)】

自分、友達を大切にし、自分のやさしさを磨く子ども

【たくましく生きる(剛健)】

めあてを持って、最後まで「やり切る」子ども

鳥取第四幼稚園

教育目標

ゆたかで、やさしく、
たくましい子ども



めざす子ども像

- ①自ら目標をもって、たくましく活動する子ども
- ②友達の気持ちを思いやり、協力しあって遊べる子ども
- ③素直に感動する心を持ち感動を創造性豊かに表現できる子ども
- ④豊かな生活経験の中から物事を知的に理解し判断できる子ども
- ⑤豊かな感性を持ち「生きる力」を身につけた子ども

のぞみ保育園

保育目標

環境を通じて行う教育・保育
を基本とし、生活や遊びを通
じて生きる力を育成するよう
努め、学びの基礎を培う。

めざす子ども像

- ・ 基本的生活習慣を身につけ、健康で安全な生活を送る子ども
- ・ 感じたことや体験したことを自分なりに表現する心豊かな子ども
- ・ 様々な人とかかわる中で、相手の気持ちを思い、仲間を支え合う子ども



昨年度までの幼保小の連携

- ・ 1年生と年長児の交流会 「しゃぼんだまであそぼう」



1年生がコップをもつ。
年長児は、液をつけてふく。

↓
園でしていること、小学校
でしていることなど、お互い
のことが分かっていないまま
交流をしていた。

保育参観など、職員の交流△

2. 本年度の取組

思いを込めた一つの名前から新しい連携を始める

①思いを込めたネーミング作成

組織

人

教育

- ☆ 仲良くつながりたい！
- ☆ 親しみの持てる
ネーミングにしたい！

架け橋なかよしプロジェクト

②保育参観・合同研修会の実施

目的

園と小学校の教育のつながり

- ・お互いに知り合い、子どもたちのことを知る。
- ・年長担任、1年担任、管理職だけでなく全職員が取組を知る。

内容

7月22日（火）鳥取第四幼稚園

7月24日（木）のぞみ保育園

保育参観・合同研修会の実施

保育参観 鳥取第四幼稚園

『友達と一緒に遊ぼう！』



「どうしたらうまく
転がるかな？」
「段ボール、ななめに
してみる？」



「このキーホルダー
ください！」
「100円です！」

- ・好きな遊びを見つけ夢中で遊ぶ姿
- ・イメージを共有し、一緒に遊ぶ喜び

保育参観 のぞみ保育園

『わくわくみんなまつりを楽しもう！』



「もぐらが出てきたら、
叩いていいよ。」
「急いでひっこめて。」

「同じ形を使うと、
たくさん積めるよ。」
「そ〜っとね。」



- ・自分の言葉で伝えようとする意欲
- ・思いが通じる心地よさや喜び

意見交換・合同研修会

相互理解の土台を築く：合同研修による視点の共有

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に、
子どもの姿や小学校につながる学びの姿を話し合う

子どもの姿を知ることによって・・・

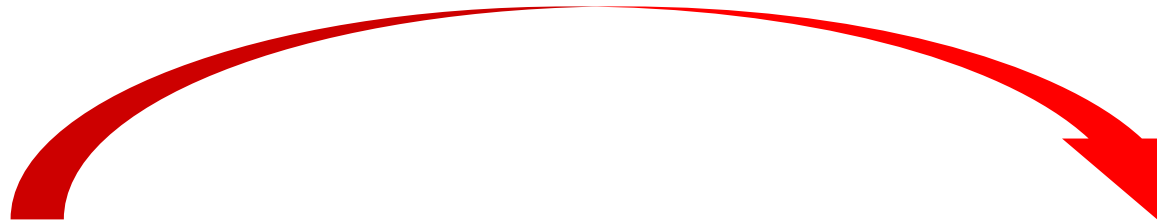
- ・ 小学校以降の学習や生活とのつながりを確認。
- ・ お互いの保育・教育で工夫できることを考える。



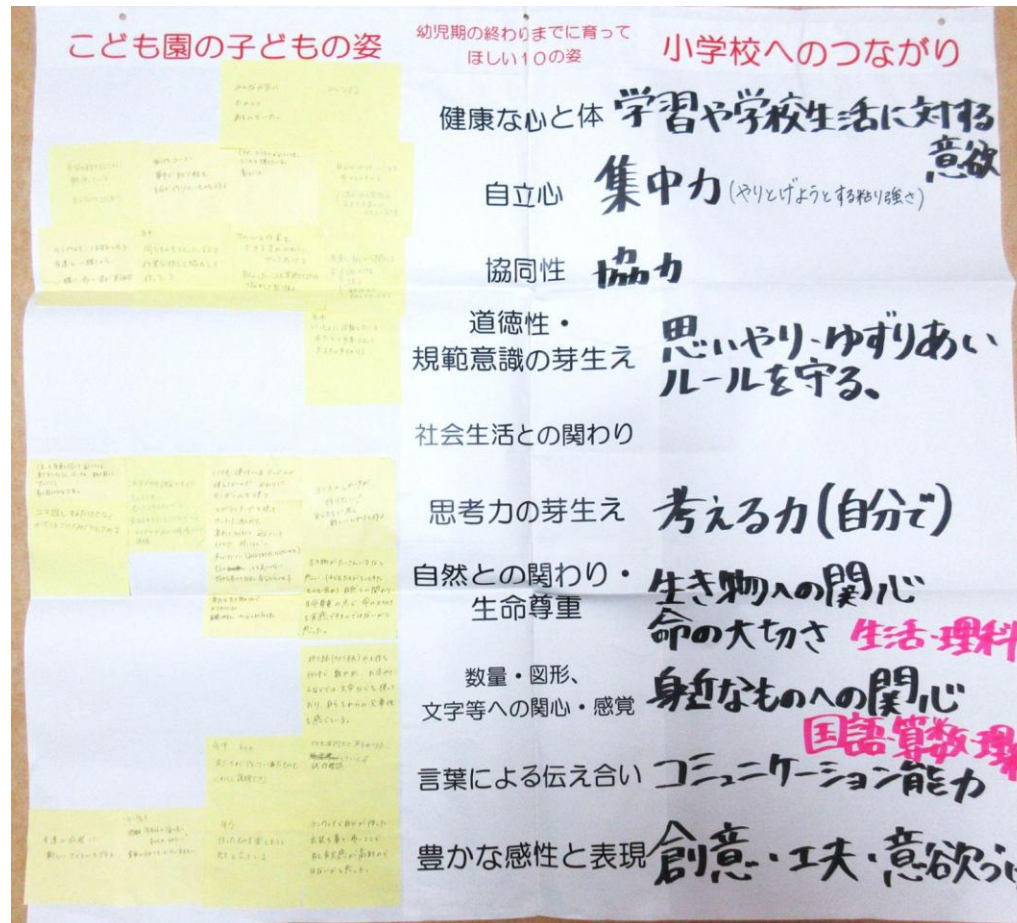
教育をつなぐ

園の子ども姿

小学校の子ども姿



- ・ やりたいことに夢中で取り組んでいる。
- ・ 友達に自分から関わる。
(話しかける・誘う・相談する)
- ・ 自分達で考え、工夫する。
- ・ 遊びの中で数や形、文字などを使い、それらの必要性を感じている。



- ・ 学習や学校生活へ意欲をもって取り組む。
- ・ 人と関わる。
(協力する・相手を思いやる・譲り合う・ルールを守る)
- ・ 自分で考える。
- ・ 創意・工夫をする。
- ・ 様々な学習へつながっている。

保育参観・合同研修会を終えて・・・

(小学校)

- ・子どもたちが主体的に遊びに向かい、のびのびと活動する姿が印象的だった。園での学びをどのようにして小学校につなぎ、生かしていくかをもっと考えていく必要がある。
- ・小学校で、子どもの主体性をより発揮させるためには、教師が指示を出しすぎないことが大切だと考えた。
- ・園では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を大切に保育に当たっている。就学前に大切にしていることや育ちを意識して、小学校の生活につなげていきたいと思った。

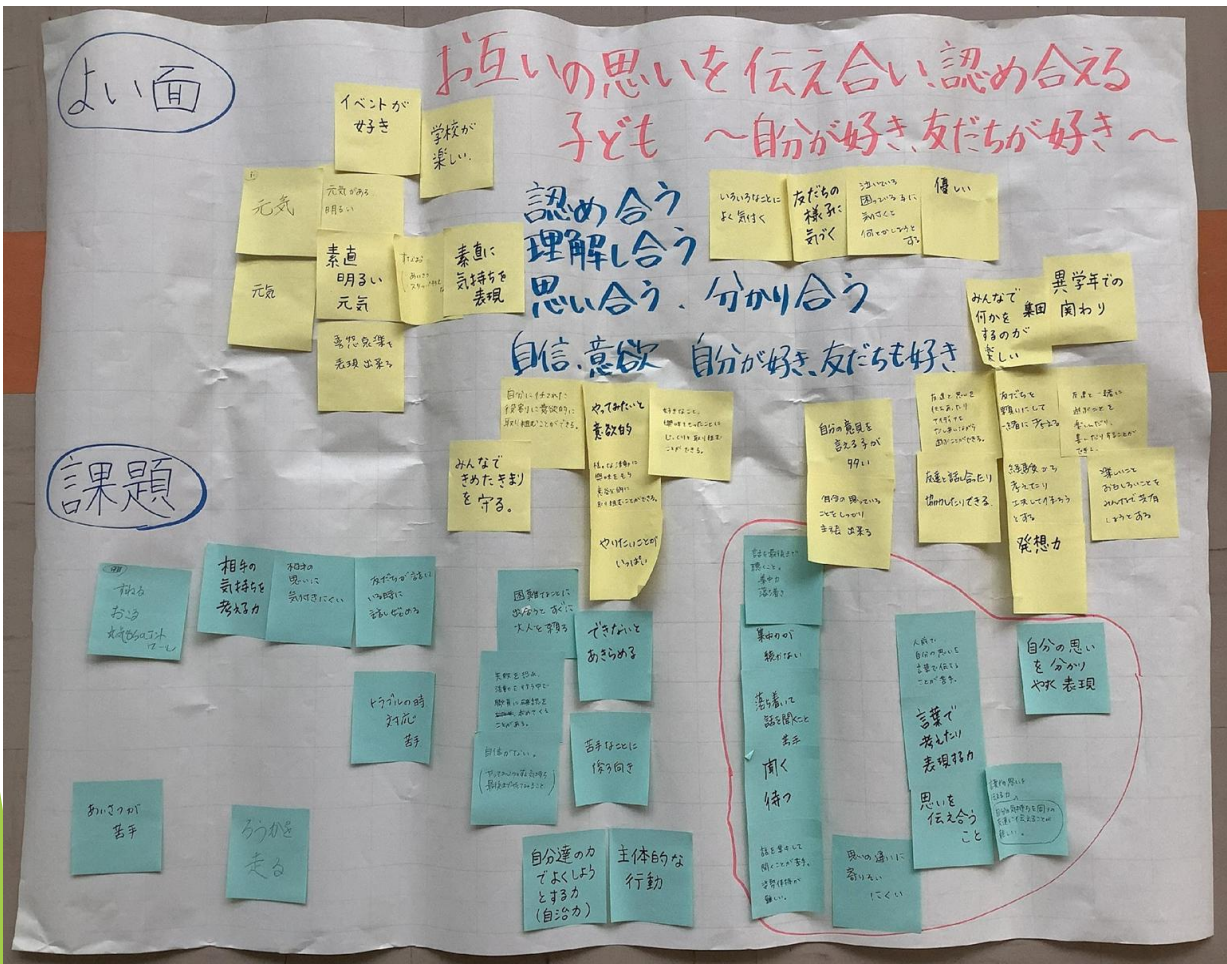
(園)

- ・園での子どもの姿を肯定的に認めていただき、園の取組を知っていただけて、嬉しかった。
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で話し合うことで、園で行っている保育が小学校にどのようにつながっているのかを確認することができてよかった。

③「めざす子ども像」についての話し合い

お互いの思いを伝え合い、
認め合える子ども

～自分が好き、友だちが好き～



計画から実践へ：共同で作成した「あきのおもちゃ交流会」指導案

④ 1年生と年長児の「あきのおもちゃ交流会」

☆合同指導案

1年担任、年長担任で
相談して作成。

お互いの日々の取組が
伝わるような活動を計画する。

めざす子ども像

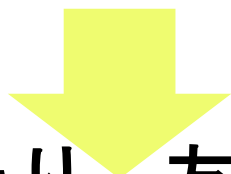
↓
資質・能力

| のぞみ保育園、第四幼稚園年長児と美保南小学校1年生との交流会 活動案 令和7年12月11日(木) 10:00～11:30 場所:美保南小学校 | | | |
|--|---|--|---|
| 1 めざす子ども像 お互いの思いを伝え合い、認め合える子ども ～自分が好き、友だちが好き～ | | | |
| 2 本時の活動 (1) 本時のねらい | | | |
| 年長児 | 活動のねらい | 1年生 | |
| 「どんぐりまつり」 ○1年生と関わりを持ち、自然物を使った様々なあそびを楽しむ。 ○自分の思いを伝えようとしたり、言葉で相手の思いを聞いたりしながら一緒に遊ぶことを楽しむ。 | ○活動のねらい ○目標す子ども像に向けてのねらい | 1年生 生活科「たのしい あき いっぱい ～いっしょにあそぼう～」 ○年長児の気持ちや想像しながら作ったおもちゃで遊ぶことを通して、遊び方や関わり方を工夫し、一緒に活動を楽しむことができる。 ○友だちの考えを聞いたり、自分の思いを言葉で伝えたりすることができる。 | |
| (2) 本時の流れ | | | |
| 時間 | 保育園・幼稚園 | 活動の流れ | 小学校 |
| | ・予想される児童の姿 ○保育者の役割 | 活動の流れ | ・児童の活動 ○指導者の支援 ○評価基準 |
| 10:00 | ・はじめる会に参加する。 ・先生や小学生の顔を見る。 ○落ち着いて話が聞けるように、座り方を整えたり、声をかけたりする。 ・鳥取第四幼稚園は「青い空に絵をかこう」を披露する。 ・みんなで一緒に「エビカニクス」の体操を楽しむ。 ○自信をもって発表が出来るように、保育士が率先して楽しく元気に活動に参加し、盛り上げるようにしていく。 | ○体育館 はじめる会をする。 ・はじめる挨拶 ・園の出し物 ① 歌 ② ダンス | ・はじめる会をする。 ・園の出し物を見て、一緒に楽しむ。 ○「楽しみなね」「すごいね」「一緒にやってみよう」など、興味をもって一緒に楽しむことができるような声をかける。 ○一緒に楽しんでいる様子を確認する。 |
| 10:15 | ・各教室に移動する。 ○教室の中で、安心して過ごせるように、子ども達の様子を見守りながら、必要に応じてサポートするようにしていく。 ・園で作成したおもちゃを紹介したり、遊び方を伝えたりしながら、一緒に遊ぶ。 ・のぞみ保育園さんは「どんぐり迷路」をプレゼントする。 ○おもちゃ紹介では、遊び方や工夫したところなどが伝えられるように、様子を見守りながら言葉を引き出していく。 ○小学生との関わりを見守りながら、楽しさや楽しさに共感し、次の活動への意欲が高まるようにサポートするようにしていく。 ・小学生の話を聞く。 ○落ち着いて話が聞けるように、子ども達の様子を見守りながら、必要に応じて声をかける。 | ○各教室 のぞみ1クラス、第四2クラスの3クラスに分かれて活動する。 園のおもちゃを紹介する。 ・どんぐり迷路 | ・園で作ったおもちゃを紹介してもらう。 ・紹介してもらった後に感想を言い、よさすごいと思ったことなどを伝える。 ○年長児のおもちゃを見守り、工夫しているところや、自分たちのおもちゃとの相違点に気付くことができるようにする。 ○積極的に感想が伝えられるように声をかける。 |
| | | | ・司会を中心に、活動の流れを確認する。 ・どんなおもちゃがあるのか、回る順番、各コーナーで遊ぶ時間などを伝える。 |

| | | |
|---|---|---|
| ・様々なおもちゃで遊ぶ。 ○小学生が作ったおもちゃを大切に扱うように声をかけたり、子ども達の様子を見守ったりする。 ○小学生と一緒に活動する楽しさや楽しさを味わえるように、子ども達の関わり方の様子を見守ったり、保育教諭も一緒に遊びに参加し、盛り上げたりするようにしていく。 ○覚悟している子どもには、保育教諭が寄り添ったり、一緒に遊びに参加したりしながら楽しむようにする。 ○小学生が作ったおもちゃの面白さや、美観などに気づくことができるように、子ども達の思いに共感したり、引き出したりしていく。 ○安全面に十分留意しながら活動を進めるようにする。 | 活動の流れを確認し、確認する。 ・おもちゃ紹介 ・関わり方 ・時間 ・司会会が中心となって進める。 | ○コーナーを紙で区切って分かりやすくしたり、おもちゃが壊れた時に自分たちで直すことができるように、材料を近くにおいたりするなど、環境を整える。 ○全員に分かりやすいように、時間はタイマーで設定し、ローテーションできるようにしておく。 ・自分の担当の遊びコーナーで活動する。 ・説明したり、教えたり、仲良く一緒に遊びを楽しむ。 ○友だちの考えを聞いたり、自分の思いを言葉で伝えたりしている。 ○自分たちの作ったおもちゃを使って、遊び方や関わり方を工夫しながら、一緒に遊びを楽しむ。 ○自分たちが楽しく遊ぶだけでなく、年長児と一緒に楽しむという意識がもてるように声をかける。 ○覚悟で活動が進んでいない児童に声をかける。 ○積極的に関わって一緒に楽しんだり、相手を感じたりしている姿があれば称賛し、自信をもって活動できるようにする。 ○けが等がないように様子を視守る。 |
| ・おわりの会に参加する。 ・笑顔で楽しかったことや素敵なことなど思ったことを伝えあい、小学生と一緒に活動を楽しめるようにする。 ○楽しかった気持ちを振り返り、感謝の気持ちをもちながら活動を楽しめるように、子ども達の気持ちを引き出し、伝えられるようにする。 ○みんなの感想を聞きながら、思いに共感したり、一緒に活動をした楽しさや満足感を味わったりできるようにする。 | おわりの会をする。 ・感謝タイム ・おわりのあいさつ | ・おわりの会をする。 ・笑顔で感想を伝え合い、楽しかったことや心に残ったことなどを振り返る。 ○思いやりや感謝になるよう、感謝タイムは体育館ではなく、教室で伝え合う。 ○自由に思ったことや楽しかったことを伝え合い、互いに満足感をもって終われるようにする。 ○みんなが感じたよさや楽しさ、おもちゃについての感想をそれぞれ発表し、活動したよさを味わったり、気付いたりすることができるようにする。 |
| ・お別れをする。 ○次回の交流会や小学校になることに期待をもてるような声をかける。 | ○教室前廊下 みんなで見送りをする。 | ・見送りをする。 ○次回の交流会への期待をもてるような声をかける。 |

連携がもたらした変化①：主体的に学び合う 【小学校の子ども姿】

- ・ 年長児に楽しんでもらうために、目的意識をもって活動できた。
(遊びの内容、材料、遊び方、声のかけ方)
- ・ それぞれが作ったおもちゃを紹介することで、互いに良さを
見つけたり、関心をもったりすることができた。



自信をもって発言したり、友達に優しく接しようとして
したりする姿が見られるようになった。

少しずつ「めざす子ども像」に近づいている



連携がもたらした変化②：子どもに寄り添う 【先生の関わり】

（小学校）

- ・ 子どものできることが多いことに気づき、声のかけ方に気を付けたり、見守って任せたりすることが多くなった。
- ・ 子どもの思いをより丁寧に聞くようになった。
- ・ 作品に込められた子どもの思いに気付いた。

（園）

- ・ 発言力のある子どもの思いだけで進めるのではなく、一人ひとりの思いを丁寧に聞くようになった。
- ・ 子ども同士をつなぐ関わりを意識するようになった。

連携がもたらした変化③：主体的に学び合う 【園の子どもたちの姿】



- ・ 招待状をもらったり、遊びを再現しようとしたりする中で文字への興味・関心が高まった。
- ・ 共通の目的ができたことで、言葉を使って友達とやり取りをしようとする姿が多く見られるようになった。

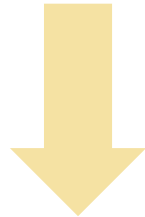
成果を次年度へつなぐ

⑤「**架け橋期のカリキュラム**」作成へ向けて

季節ごとに分けて、カリキュラムを作成中。

(案１)生活科を中心として本年度取り組んだことを書く。

(案２)子どもの発達を捉えて書く。



今後、活用していくためには、どのような書き方がよいか、現在試行錯誤中。

3. 本年度の成果

- 小学校以降の学習や生活とのつながりを確認することができた。
- 交流を通した子ども同士のやりとりや興味がその後の園での遊びの広がりにもつながっていった。
- 共通のねらいをもった互惠性のある活動を展開させることができた。
- お互いの子どもたちの育ちを知ることで、子どもへの関わり方を見直すきっかけになった。

本年度の取組を土台に、より円滑で意味のある幼保小の連携を目指し、架け橋期のカリキュラムを完成させ、実践を進めていく。